

今夏の猛暑は9月に入っても衰えません。下旬までの辛抱かもしれません。体調に御気をつけお過ごしください。<8日 白露, 9日 重陽, 20日 敬老の日, 23日 秋分の日>

1. September ご案内 改正情報

- ①退職後継続再雇用された方の標準報酬月額の見直し方法が見直されました<9/1施行>→法律ワンポイントをご参照ください。
- ②日本年金機構からの定時決定の「決定通知書」に基づき今月、新標準報酬月額の等級に変更します。また、そして厚生年金保険料の料率も変更となっていますので、等級変更のない人も含めて設定変更して下さい。9月から1年間は、**厚生年金保険料〔一般〕の料率は16.058% (80.29/1000 労使各負担分)**です※厚生年金保険料率は毎年0.354%ずつ、この定時決定に併せて9月にアップします。
※ 7月変更・8月変更のあった人は、その変更後の等級が来年8月まで続きますのでご注意ください。※ 9月分の保険料としては通常、翌月の10月支払い給与から変更です!



↑長良川鉄道終点 北濃駅にて

2. 名言名句

『いったん志を抱けば、この志にむかって事が進捗するような手段のみをとり、
いやしくも弱気を発してはいけない。たとえその目的が成就できなくても、
その目的への道中で死ぬべきだ』

坂本龍馬

3. 法律ワンポイント

退職後継続再雇用された方の標準報酬月額の見直し

これまでは、特別支給(60歳台前半)の老齢厚生年金の受給権者である被保険者であって、定年により退職後継続再雇用(※)される場合に限って、事業主が厚生年金保険及び健康保険(以下「厚生年金保険等」といいます。)の被保険者資格喪失届及び被保険者資格取得届を同時に年金事務所へご提出いただき、再雇用された月から、再雇用後の給与に応じて標準報酬月額を決定することとしていました。

☆これらの方に加えて、平成22年9月1日以降は、特別支給の老齢厚生年金の受給権者である被保険者60歳から64歳までの年金を受け取る権利のある方で、再雇用される全てのケースで「同日 http://www.nenkin.go.jp/question/002/sonota_ga_ans02.html 資格喪失・取得」ができるようになりました。

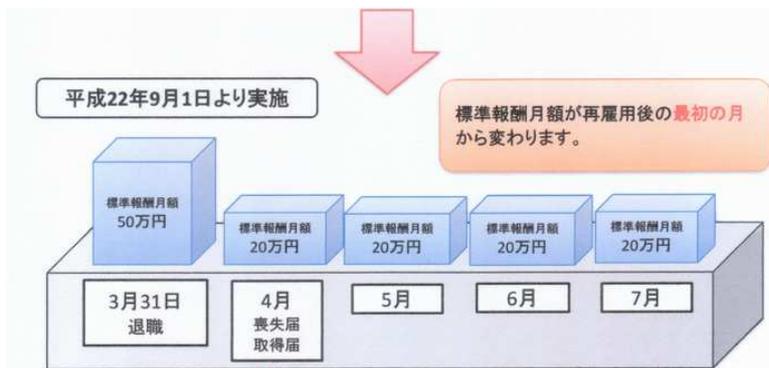
- ① 定年制の定めのある事業所において定年退職以外の理由で退職後継続再雇用(※)された場合
- ② 定年制の定めのない事業所において退職後継続再雇用(※)された場合も対象となります。

(※)1日も空くことなく同じ会社に再雇用されることをいいます。

添付書類 退職したことが判る書類、再雇用時の雇用契約書

注意点 傷病手当金を受給している方は再雇用後の標準報酬月額に基づいた給付額の計算になります。(従来どおり)

定年退職時以外は「3か月待っての月額変更届にて手続」で標準報酬月額と保険料が変更されていました。



☆これで、給与が下がったと同時に保険料も下がリスッキリで、本人も納得できると思います！

4. データ・情報

①メンタルヘルス疾患社員 44.6%の企業で「増加傾向」(8月23日)

日本生産性本部がメンタルヘルスに関する企業アンケートの結果を発表し、うつ病な

どの「心の病」の問題を抱える従業員が最近3年間で増加傾向にあるとした企業の割合は44.6%であることがわかった。減少傾向にあるとした企業の割合は6.4%だった。

② 受診のない所在不明高齢者の年金を支給停止へ (8月21日)

長妻厚生労働大臣は、一定期間、医療機関で受診していない高齢者の所在が確認できなかった場合、年金を支給停止する方針を明らかにした。「現況届」の提出を求めて所在を確認する考え。

③ 未婚男性の6割超「結婚・出産後も妻に働いて欲しい」

民間調査 通信教育のユーキャンなどがこのほど発表した「結婚・出産後の仕事に関する意識調査」結果によると、現在未婚で働いている男性の63.0%が「結婚・出産後も妻に働いて欲しい」と回答し、「専業主婦になって欲しい」の37.0%を大幅に上回った。

④ 「1年以上」の失業者が118万人に増加 (8月18日)

総務省が今年4～6月期の「労働力調査」の結果を発表し、月平均の完全失業者は349万人で、そのうち失業期間が「1年以上」の人は118万人(前年同期比21万人増)であることが明らかになった。

⑤ 4年制大卒者の就職率は60.8% (8月6日)

文部科学省が「学校基本調査」(速報値)の結果を発表し、今春に4年制大学を卒業した人の就職率が60.8%(前年度比7.6ポイント低下)となったことがわかった。就職も進学もしていない人は約8万7,000人(同28.3%増)だった。



←特急「南風」のアンパンマン列車
↑琴平駅

<H・T・T> Hot~ tea time ほっと〜ティ〜タイム



古い家を建替える為、仮住まいへ引っ越すことになりました。
片付け始めると、「よくぞ、これだけ溜(貯?)め込んだ」と、あきれ程の不用品の山・山・山……。引越しの日が迫り、「もっと早く手をつければ良かった」と後悔してもあとの祭り。初めのうちこそ懐かしがって眺めては丁寧に箱詰めをしておりましたが、仕舞いに「①なかなか使わない物でまた買うことができるものは捨てる。(Sの方針!)」「②見ると迷うから見ないで捨てる。(長男の方針!)」「③自分がいなくなつてから、家族が見て困るもの・ビックリする物は捨てる。(Sだけの方針!!)」という具合にゴミ袋を増やしていきました。とうとう引越しの日の午前3時まで箱詰めを続け、結局「もう、とにかく残りは全部仮住まいへ持って行って、そこでゆっくり片付けようよ」ということになり、箱に入りきれない物も全て仮住まいへ移しました。……。それから早3週間。ダンボールの山は一向に減らず(もちろん、せつせと片付けているのですが)、帰省した大学1年生の三男は、崩れそうな箱の山の谷間に布団を敷く始末。「数ヶ月後、新居に入る時はスッキリ！」という思惑はずれ、もしかすると、このままガラタごと移動することになるのではという、イヤ〜な予感もしてきたところです……。(M)

